

July  
August  
2013  
No.8

# News Letter

ニュースレター

Tsuyama chuo hospital nursing department 津山中央病院 看護部

がん化学療法看護認定看護師  
糖尿病看護認定看護師 誕生！  
おめでとうございます！

## 糖尿病看護認定看護師

糖尿病患者数は、年々増加の一途をたどり、未治療者や治療中断者も多く、細小血管障害・大血管障害といった合併症の発症は患者さん自身の生活に大きな影響を与えます。治療上、食事や運動療法、インスリン自己注射といった長期に渡るセルフケアが必要となり、慢性疾患と共に生きていくことは、患者さん自身がその人らしく生きていくことを難しくしてしまいます。こういった患者さんの思いに沿い、心理的・社会的・身体的側面から包括的に理解し生涯を見据えた目標設定を患者さんと共にを行い、患者さん自身がセルフケアを確立できるよう支援していきたいと考えています。また、他職種と協働し、糖尿病の発症予防や指導・教育といったチーム医療を推進し、質の高い糖尿病看護が提供できるよう頑張りたいと思います。



3階西病棟  
保田 司

## がん化学療法看護認定看護師

がん化学療法は手術療法や放射線療法と同様にがん治療において重要な治療の1つであり、個人差はありますが、薬により副作用が出現します。また、薬による身体的苦痛だけでなく、治療をする上で、心理的・社会的苦痛も伴います。がん化学療法看護は患者さんが確実・安全・安楽に治療が受けられるように、抗がん剤の投与管理や副作用症状のマネジメント、意思決定支援、心理的支援を行います。

私は、2013年にごん化学療法看護認定看護師の資格を取得し、現在、化学療法センターに勤務しています。がん化学療法を行う患者さんが治療を納得して、かつ安全に、そして苦痛を最小限に治療を受けられるよう他職種と連携をとりながら、支援していきたいと考えます。また、患者さんが自分らしい生活を送りながら治療を受けることができるよう、患者さん一人ひとりに沿った看護の提供を目指しています。



化学療法センター  
遠藤 壽美枝

## 【当院における認定看護師】

皮膚・排泄ケア認定看護師	2 名
感染管理認定看護師	1 名
救急看護認定看護師	1 名
緩和ケア認定看護師	1 名
糖尿病看護認定看護師	1 名
がん化学療法看護認定看護師	1 名

## 新たに2分野の認定看護師が誕生しました！

これまで4分野で5人の認定看護師が医療・看護の質の向上のために活動してくれておりますが、今回「がん化学療法看護、糖尿病看護」の認定看護師が加わりました。さらに、このたび認定看護師会を発足し、お互いの活動について確認し、認定看護師間の連携を深めることで、6分野7人の認定看護師が自らの専門性を活かし、チーム医療を推進し活躍してくれることを期待しております。

今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

看護部長・認定看護管理者 安藤 佐記子



他施設合同新人研修終了

4月16日～3ヶ月間、計7回実施の他施設合同新人研修が、終了しました。昨年より全体的に時期を早めに設定し、終了時のアンケートでは処置、観察項目を除き、8割程度の新人より、開催時期は適切であったとの回答を得る事ができました。また、研修終了後、研修が臨床で活かされているかについては「急変時の対応」以外は9割以上の新人が大変活かせたと回答しています。急変時の対応に関しては、新人である為、今後の臨床経験の中でこの研修を活かしてくれる事を期待しています。研修内容に関しては、特にBLS実技が全体の講義において8割以上の満足度を得ていることを示していました。

この結果と下記の研修への意見感想をふまえ、来年度もさらに充実した研修内容を検討していくと共に、忙しい業務の中、新人看護師研修にご協力いただいたスタッフの皆様、本当にありがとうございました。



津山中央病院 意見・感想	他施設 意見・感想
今までの新人研修では、先輩方・講師の方達が分かりやすく丁寧に指導して下さい、現在、臨床の場で活かしている事が多いです。新人同士でも学んだ事を共有していきたい。	この研修で沢山の技術や知識を身に付けることができたと思います。分かりやすく指導やフォローをして下さったり外部からの講演もとても勉強になりました。研修で学んだことを臨床で活かしていきたい。
採血の処置は説明もわかりやすく、互いに実践できて良かった。どの回でも実践があるときは少人数のグループで、1つのグループに先輩ナースや指導者さんがついてくれれば質問や疑問を聞きやすいので良い。	研修と当院での違い、備品や方法の違いに戸惑う事があるが、基本、原理原則は同じであるという事を忘れずに活かしていきたい。褥瘡予防や清潔・体位・処置などは就職してすぐに関われる事なので早い時期に研修を受けられると良い。
新人研修で教えてもらった事を実際に病棟で見学・実施でき勉強になった。	新しい発見なども沢山あり、数多くの事が勉強できた。実際に現場でも習った事ができ為になっていると感じた。
採血もだが静脈留置の練習、翼状針の練習をしたかった。他の講義も含め全て勉強になり、役に立った。	講義の時間より実技の時間を長く取ってほしい。

日本看護診断学術大会 in 旭川

【第19回 看護診断学術大会に参加して】



6月22、23日の2日間、第19回看護診断学術大会に参加させて頂きました。今回は『チーム医療と看護診断』をテーマに開催され、電子カルテに看護診断を取り入れていく取り組みが多く取り上げられ学ぶことが多くありました。私たちは看護師の思考過程を、電子カルテに組み込むことは難しく、看護診断立案の思考過程に沿った看護支援システムの再構築に取り組んでおられる施設が多数ありました。

当院でも、看護診断を看護支援システムに組み入れるために看護記録監査委員会・看護システム委員会・看護システムワーキングで取り組みをしています。どのように画面構成を行い、どのように情報共有できるのか、どのように展開していけば看護システム上スムーズに看護過程の展開がしていけるのかなど考えながら、みんなが使いやすく、情報が共有できる看護支援システムにしていけるように努力して行きたいと思っています。

手術室 柴田明美



台湾看護師・学生訪問



記念に頂いた大学のタペストリーです！



7月29日(月) 柵原病院で実習をおこなっていた、台湾の中臺科技大學看護学生と現地で働いている現役看護師の6名が施設見学で来院されました。入退院支援センター、小児病棟、救命救急センターを主に見学されましたがカメラを片手に各施設で熱心に質問等をされていました。

国や言語は違いますが、同じ看護の道を志す者として学ぶ心の大切さを改めて感じる事ができ当院にとっても良い経験であったと思います。

この様な機会を大切にし、他施設との交流が、人材育成へと繋がっていく事を願っています。

